



【評価の表記方法】◎：達成 ○：ほぼ達成 △：向上に向けて内容検討 ×：今後の課題

## 1 本校の目標の達成状況

(1) 目指す学校像 (評価：今後の課題、取組み)

- 人権を尊重し、一人一人を大切にす学校 ( ○：適切な呼称、体罰根絶の徹底)
- 日々の授業を大切に、健康で安全に教育活動をする学校 ( ○：授業時間順守の徹底、時間意識の確立)
- 家庭、地域と連携を深め、地域社会から信頼される学校 ( △：交流活動の推進、地域との連携推進)

(2) 学校教育目標

- 基本的生活習慣を養い、自立し社会参加に向けた育成 ( △：時間や見通しを意識させた指導 )
- 豊かな感性と表現する力の育成 ( ○：適切な対人関係、学習発表会 )
- 学ぶ意欲、働く意欲・態度、主体的に生活する力の育成 ( ○：授業内容・指導方法の工夫、好評価 )
- 自分の仲間を大切に、ともに活動する力の育成 ( △：自己表出力の育成、他害・自傷の根絶 )

## 2 今年度の取組目標と具体的な方策に関する結果

### 中期目標と方策の評価

○人権を尊重した指導により、児童・生徒一人一人の社会参加に向けた力を育成・伸長する ( △ )

- ・体罰やいじめの根絶、自殺予防教育を推進している。児童・生徒の人権尊重の基礎となる「～くん、～さん付け」など呼称の意識、適切な対応(指導)をさらに進め、人権尊重意識の向上を徹底する。
- ・一人一人の障害特性、発達課題等に応じた指導を実施しているが、個々に応じた社会参加、自立に対する特別支援教育の実施に向けた専門性をより向上・拡充させていくことを推進する。

○児童・生徒の課題や可能性を把握し、専門性のある指導により一人一人の状況に合わせた指導の充実を図る ( ○ )

- ・障害特性などの個々の課題の理解を深め、指導方法の改善・検討を進め、一人一人の状況に応じた授業の充実化を図る。
- ・専門的な講師(大学教授等)による研修会、外部専門員の活用、校内組織の整備などの改善・検討を行い、知的障害特別支援学校としての有効的かつ計画的な指導を進めていく。

○変化・発展など、多様化するこれからの社会に対応した特別支援教育の推進 ( ○ )

- ・GIGA 端末を活用した授業実践を引き続き進めていく。
- ・これからのデジタル社会の中で生活を送ることができる力を育成するために、様々なアプリを活用し児童・生徒のICTの操作性を向上させている(GIGA 端末持ち帰りの充実)。
- ・豊かな心と健やかな身体を育むために障害者スポーツ、芸術教育(伝統文化)を実施している。タッチラグビー教室、パフォーマンスキッズ東京、総合文化祭、

○地域支援・連携・協働の推進、特別支援教育の促進 ( ○ )

- ・特別支援教育のセンター校として特別支援教育の理解啓発活動を進めていく。講師派遣や出前授業等の際の依頼内容から、地域・関係機関が求める特別支援教育に関する内容(ニーズ)を把握し、一層の地域と連携や協働した取組を促進させ、地域との一体感の構築を図る。
- ・学校公開や公開研究会の実施などをとおして、特別支援学校の理解とともに特別支援教育に関して地域が求める特別支援学校の運営(児童・生徒指導)に関する内容を整理し、連携・協力を促進していく。

【重点方策】引き続き以下の内容を重点として学校経営を推進する

- ・『人権を尊重した指導・助言を通し、児童・生徒一人一人の社会参加に向けた力を育成・伸長する』
- ・『児童・生徒の課題や可能性を把握し、高い専門性を通して個に応じた指導の充実を図る』
- ・『変化・発展など、多様化するこれからの社会に対応した教育の推進』
- ・『地域支援・連携・協働の推進、強化』

3 今年度の取組目標と方策の実施状況

【評価の表記方法】◎：達成 ○：ほぼ達成 △：確立、向上に向けて検討継続 ×：今後の課題

(1) 学校運営

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	評価
①	計画的に服務事故防止研修を実施し、体罰・不適切な指導、ハラスメント等を根絶する。	各学期1回以上の研修 事故件数 0件	○
②	児童・生徒の呼称への「～くん、～さん」付の徹底など、児童・生徒の人権の尊重及び不適切な指導の根絶	通年、全教職員 不適切指導 0件	△
③	ICT等を活用した業務の効率化・ペーパーレス化及びライフ・ワーク・バランスの推進（職員連絡会、企画、主幹会、主任会、学年会、分掌部会）	企画調整会議他、各会議 ペーパーレス事業推進	○
④	一人一人の教職員の業務分担と責任を明確にし、主幹教諭を中心とした業務の進行管理の徹底	学期ごとに進捗管理 課題の確認・明確化	○
⑤	経営企画室と校務分掌、各学部の確実な連携による、課題の明確化及び効果的かつ効率的な学校運営の推進	通年、企画調整会議、経営会議	△
⑥	教職員一人一人の校内・校外研修への積極的な受講による、特別支援教育や業務遂行に係る課題解決のための専門性向上	一人1回以上受講	△
⑦	校内OJT、若手教職員育成研修や教育実習、東京教師養成塾、教職大学院との連携等を促進し、特別支援教育を担う人材の組織的育成	通年 一人1回以上の研修	△
⑧	特別支援教育C○を中心とした特別支援教育センター校としての地域・関係機関への相談・支援活動の拡充、特別支援教育に関するニーズ把握	通年 相談件数：200件	○
⑨	効率的な予算執行を行い、学習環境の整備を進めるため、センター執行率の向上を図る	センター執行：65%	△

(2) 学習指導

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	評価
①	児童・生徒の障害特性や各種アセスメント結果を指導内容・指導方法に反映する（学習環境の調整、スケジュール）とともに保護者面談を通し情報を共有する	年2回	○
②	外部専門員の活用・連携を通して、課題設定、指導内容、指導方法の充実	累計 年900時間以上 一人1回活用（157回）	○
③	オリンピック・パラリンピック教育の五つの育成視点を「学校2020レガシー」として、日本の伝統文化、障害者スポーツ、芸術教育の指導を進める	総合文化祭、PKT、タッチグビー、笑顔と学びの体験	◎
④	基礎体力の向上、体幹機能の向上・安定に向けた運動活動の改善・充実	通年（体育）、体育発表会	◎
⑤	GIGAスクール端末を児童・生徒が主体的に活用する授業、家庭での活用を計画・実施し、児童・生徒の課題解決、コミュニケーション能力の育成	通年（学期ごとに検証） 今後、持ち帰り推進	△
⑥	地域と連携した児童・生徒の指導に関する単元の構成や内容を目指し、教科横断的な取り組みについての授業研究を中心に研究活動を推進する。 「主体的・対話的で深い学びを得られる単元の構成や内容を目指す～地域とつながる教科横断的な取り組みについて考える～」	年10回（校内研究会等）	○
⑦	授業アドバイザーによる授業改善・教材開発に向けた指導・助言	若手教員：指導1回以上	○
⑧	教材・教具の開発・作成、共有促進のためのTeams内フォルダーへの蓄積	各教科20件以上	○

### (3) 生活指導

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	評価
①	感染症等の防止、事故0のための校内安全点検、整理整頓、消毒の徹底	通年・随時	◎
②	スクールバス運行会社との連携、情報共有の充実による、安全かつ適切な運行の徹底	連絡会 年3回	△
③	日常生活における挨拶、身だしなみの適切な習慣化に向けた基本的な指導を徹底する	通年	○
④	公共施設や公共交通機関等の利用を通して、社会のルール等の指導を計画的に行う	各学年 年1回	△
⑤	防災対策として品川消防署及び品川警察署、近隣小・中学校、地域関係機関等と連携した防犯・防災及び安全教育を推進する	避難訓練 年11回 防犯・安全教育 年3回	○
⑥	迅速なヒヤリハット報告、事例の共有による危機管理意識向上と改善策を確立する	通年 確実な報告・危険予測	△
⑦	家庭や関係機関と連携し、日常生活動作（ADL）、基本的な生活習慣を確立する	通年（連絡帳・個別面談）	△
⑧	学校医、医療関係者、保護者と連携し、児童・生徒の心身の健康教育・摂食指導・保健指導を充実させる	通年 ケースまとめ 年3回	○
⑨	体罰やいじめ根絶・自殺予防教育に向けた会議の実施（情報収集会議を含む）	年50回以上（1回/週）	△

### (4) 進路指導

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	評価
①	キャリア教育の視点における教育活動の検討・改善、学級指導や係活動の推進、就労に関する理解推進（就労先見学、就業体験、地域清掃活動）	各学年通年 小5～中2体験 年1回	○
②	一人一人の生活年齢や状況に応じた、家庭と連携した一人通学指導の推進	通年	○
③	教員・保護者対象の事業所見学会又は講演会等の実施	年1回以上	○
④	進学先を見通した中学部3年保護者へ高等部説明会への参加の促進と教員の上級校説明会の参加	港特支・田園調布特支・青鳥特支 各1回以上	◎

### (5) 特別活動・その他

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	評価
①	読み聞かせの会、読書活動を通じたコミュニケーション、言語活動の充実	各学級・通年	○
②	図書館の環境整備、読書活動の推進、新規図書購入の促進による蔵書の充実	年100冊以上	◎
③	集団を意識できる学級経営・学級活動の内容整理・工夫を行い、児童・生徒の育成につなげる	年3回（学期はじめ）	△
④	日々の指導の集大成としての全校行事や学年行事等のねらい、内容等を精査する	各学年 年3回以上	○
⑤	医療的ケアの全校理解を深めるために、実施状況に関してミニ講座等による発表	年2回、全校周知	△
⑥	医療的ケアを要する児童・生徒の適切な管理を徹底・周知するため、医療的ケア安全委員会を実施する	委員会年6回以上	○
⑦	学校間交流や副籍事業（副籍交流）等に関する連絡会等の実施	1回以上	△
⑧	学校間交流、社会貢献活動等の社会や地域との関わりをもつ活動や自立と社会参加に向けた取り組みを学部、学年等の単位で進める	各学年1回以上	○
⑨	特別支援教育コーディネーター等による小・中学校への巡回相談・電話相談等の実施	巡回相談の拡大・充実 相談件数は200件	○

⑩	品川区特別支援学級等（スキルアップ研修）への講師派遣※専門性向上研修	年3回以上	○
⑪	特別支援教育推進室、通学区域教育委員会及び就学前施設等との連絡会を実施し、適切かつ円滑な就学・転出入相談を進める	通年実施 適切な就学相談に未達成	△
⑫	地域の相談機関と協力・連携（子ども家庭支援センター、児童相談所、各区福祉課等）し、支援会議を充実させ、児童・生徒の家庭生活・地域生活の充実を図る	年5回以上 ケース把握を通じた全児童生徒の生活改善	△
⑬	オンライン配信や学校ホームページを使った情報発信・提供の充実	更新100回 提供内容の検討	○

#### 4 本年度のまとめと令和6年度に向けた経営に関する対応内容

##### (1) 本年度のまとめと今後の方針

- 様々な感染症の影響で、様々な教育活動について対応を必要とした。引き続き、感染防止に努めるため実施形態を工夫するために、学校経営計画で取り組みに関する内容の検討を指示する。
- 従来の学習活動を再開できてきているが、地域関係機関と連携した多くの活動など、今まで中止になっていた活動や、実施できない環境であったことに関しては、内容や効果への理解が十分ではないと考えられる。特別支援学校センター校としての役割の発揮や、児童・生徒への効果的な指導の向上、展開、推進のためにも、地域への理解・啓発を目的とした、近隣の商店街、自治会と連携したキャリア教育の実施の検討を進めていく。
- タブレット端末の活用については、今後の社会のICT化を踏まえ、校内の活用とともに家庭内環境における使用に際しての課題を把握し、「GIGA 端末の持ち帰り」を進めている。また、昨年度同様、長期欠席者の学習につなげる試みはできたが、全家庭での活用については、具体的方策を含め、引き続き課題の把握や具体的方策に関する検討が必要である。今後についてもオンライン授業を始め、児童・生徒の多様な学び方（指導の仕方）についての対応を進めていく。同時に、指導を行うことを通して児童・生徒のICT操作力の向上も目指していく。
- 働き方改革については、平均超過勤務時間は、約17.4時間/月と大幅に改善されてきたが、一部の教員については毎月の超過勤務時間が多い状況が見られる。引き続き、一人一人の教員の健康管理と組織的な業務遂行（相互協力体制）による業務の効率化を進め、達成感や満足感を得るための一つとして対人関係の向上も図っていく。
- 児童・生徒数の増加により、教室（含 特別教室）の不足、スクールバスの運行状況が大きな課題となっている。現段階においては教室数の確保とともに校内施設（特別教室）の有効的な活用のための検討が重点項目となっている。校内環境整備、校内施設の利用に関しては、一人一人の教職員が課題を明確にし、組織的に迅速な対応を進めていけることが重要な方針となる（主体的かつ確実な「報・連・相」）。

##### (2) 令和6年度の方針

前述のとおり、4点の重点方策を定め、各項目について学校経営の改善、向上、充実を図る。

##### ア 人権を尊重した指導・助言を通し、児童・生徒一人一人の社会参加に向けた力を育成・伸長する

- ・研究活動と連携しキャリア教育を基とした、自立と社会参加を見据えた、主体性（自己選択・自己決定）を育む系統性のある9年間の年間指導計画の作成及び指導内容の充実
- ・指導体制・指導組織の充実（学年会、教科会）により効果的指導を推進する
- ・児童・生徒の人権を尊重した呼称の徹底、適切な対人関係の育成、体罰・暴言の根絶

##### イ 児童・生徒の課題や可能性を把握し、高い専門性を通して個に応じた指導の充実を図る

- ・地域の小・中学校、特別支援学級への講師派遣（出前授業）、交流教育など、地域と連携した特別支援教育の実施
- ・保護者、地域、都民のニーズを把握し、より効果的な特別支援教育を促進するために、外部の講師による研修会や外部専門家の活用に積極的に取り組み、教員の専門性向上に努め、保護者とともに児童・生徒の育成を進める環境を構築する。
- ・児童・生徒の課題に適切に対応できる指導の充実と環境の設定

##### ウ 変化・発展など、多様化するこれからの社会に対応した教育の推進

～ GIGA スクール構想の推進に伴う、情報教育（多様な学び）の充実の推進 ～

- ・ 日常の学習活動でのタブレット端末活用、オンライン授業の推進
- ・ タブレット用教材の開発の推進（デジタルサポーターの活用）、児童・生徒の実態、教科指導に適したアプリ（有償・無償）、ICT操作能力の育成
- ・ 自宅待機者や長期欠席者の学習保障・学習支援の充実

エ 地域支援・連携・協働の推進、強化 ～ 特別支援教育の理解・啓発 ～

- ・ 共生社会（インクルーシブ教育）の実現に向けた交流教育の推進（巡回指導、出前授業）
- ・ オンラインと実際の交流のハイブリット型交流の推進
- ・ 学校間交流、個々の直接交流の推進（実施回数をコロナ前の状況に近づける）
- ・ 社会貢献活動（地域清掃等）、就業体験、地域資源を活用した学習活動等を通して、特別支援学校としての存在意義を高めるとともに障害特性、適切な対応についての理解を深める。